

令和3年度職員採用選考試験  
看護 専門記述試験 (3.6.20)

= 課題 =

○ 胃がん患者の看護について

事例を読み、次の質問について、それぞれ記述しなさい。

事例 Aさん 57歳 男性

- ・ 診断名：胃がん 腹膜播種
- ・ 背景：2～3か月前から食欲不振があり、近医を受診し上部内視鏡検査を受けた結果、胃体部前壁から大彎にかけて潰瘍性変化と出血を認めた。その場で総合病院に紹介され精密検査を受けた結果、進行胃がんで腹膜播種を認め(T3N2M1)、ステージⅣと診断された。医師よりAさん、妻、長男へ病状説明が行われた。医師は、「胃がんの腹膜播種があり、ステージⅣの状態。手術の適応はなく抗がん薬を投与する治療を行う」との説明をした。Aさんは、「がんだと言われたが信じられない。抗がん薬は副作用が強いと聞いた。仕事は続けられるのか…」と動揺していた。
- ・ 現在の状況：薬物療法は、カペシタビン+シスプラチン併用療法が決定し、治療目的で入院となった。

(1) Aさんが診断された、「T3N2M1」、「ステージⅣ」とはどのような状態を示すのか説明しなさい。

(2) 抗がん薬を受ける患者の看護についての視点を2つ挙げ、具体的なケアを答えなさい。

(3) 学生Cは、初回の抗がん薬投与前、検温のため、Aさんの部屋を訪室した。

<検温場面のやり取り>

学生C：「血圧や体温の異常はありませんね。昨日は眠れましたか。」

患者A：「入院も初めてで眠れなかったよ。点滴でトイレも何度も行ったし…胃がんと言われてからあまり眠れなくてね。今日から抗がん薬で、いろいろ考えてしまっ。」

学生C：「そうなのですね。」

検温後、学生Cは、指導者へ、「Aさんが眠れてないようで、つらそうに見えたが、何も言えなかった」と相談に来ました。あなたが実習指導者だったら、教育的な関わりとして、学生Cにどのような声をかけるか、具体的な発言とその意図を述べなさい。